

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202792		
法人名	社会福祉法人 淳邦会		
事業所名	グループホームひなぎく 1F		
所在地	岡山県倉敷市福田町福田281		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・春の桜・竹の子掘り・栗拾いなど自然に恵まれた静かな環境の中で、利用者一人ひとりの生活ペースを尊重し、生活リハビリを重視した支援を行っています。</p> <p>・母体法人は複合的な福祉施設を有しており、地域の高齢者介護に携わっている</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3370202792-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3370202792-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年3月27日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所の特長として最初に挙げられるのは「食事」であり、家庭的で温かい食事を提供しようと、献立から食材の調達、調理に至るまで職員が行っている。利用者にも積極的に加わってもらい、料理や片づけの一部を担当している。日頃から利用者と一緒に料理の本を見ながら、希望が出れば応じるように努めている。誕生日を迎えた人には、何が食べたいかを尋ね、献立に取り入れている。「利用者個人の意志を尊重する」「利用者本位の質の高いサービス」「快適で生きがいのある生活の場を実現する」「常に最適の介護計画を設定し実行する」「家族との意思疎通を図る」といった理念のもとに、家族から要望の高い生活リハビリテーションを重視した支援に努めている。職員は決して急がしりせず、自分でできることはその人のペースで行ってもらい、見守りに徹している。これにより、自宅ではトイレが全介助だった人が、ここに入居してから、自分でできるようになった例もある。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カウンターのいつも目に届く所に掲示しており、朝礼で毎日ひとつずつ月目標として復唱している	理念は「常に最適の介護計画を設定し実行する」等、利用者本位のケアの提供に向けた5項目からなる。朝礼で毎日復唱している月目標は「自分からあいさつ(笑顔であいさつ)」といった仕事上の基本を、時期に合わせて決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事へ参加、又は施設での行事へ招待やボランティア参加依頼などで交流を図っている	地域行事には、夏祭りの際に屋台出店といった形で参加している。事業所の秋祭りには、老人会、婦人会の人々が来訪し、身体を使ったレクリエーションや食事会を開いた。また、地域の人がボランティアにやってくる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで利用者の状況を報告し、知っていただく。見学やボランティアを受け入れ施設を開放している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族の代表等に出席していただき、会議内で提案された助言・意見を職員ミーティングで話し合いサービスの向上につなげている	運営推進会議には地域の代表として町内会長等が参加している。事業所の現状報告を行い、参加者から意見をもらう。地域との防災の勉強会につながった例がある。事業所を知ってもらおうと、事業所見学と昼食会を合わせて行ったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡し相談をしている。また、指導を受けている	市へはノロウイルスの感染が発生した時や、制度、生活保護等に関する疑問や不明点があれば、連絡して相談したり指導を受けている。地域包括支援センターからは、運営推進会議への参加、空き状況の問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで話し合い、危険防止上での行き過ぎが無いよう心がけ対応している。日中、玄関等開放している	やむを得ず身体拘束が必要と思える場合は、職員間で話し合い、家族からも意見を聞き、本人や周囲への影響を考え、拘束をしないで済むような代替策を検討する。家に帰りたいという利用者に対しては、気の済むまで職員が散歩に付き添う等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法などの研修に参加する機会ももてていないが、マニュアル作成やケガの報告による情報の共有で防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し資料をミーティングなどで活用し、実際に制度利用者がおられる事で制度理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、納得の上同意を得てサービス利用をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ意見・苦情箱の設置をし、要望などを取り入れるように努めている	意見・苦情箱は設置しているが、家族は、来訪時や電話で意見や要望を言うことがほとんどである。例えば「誤嚥があっても口から食べさせてほしい」という要望には、日々のケアで実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのミーティングや個人面談を行っている。また、毎日の申し送り等で意見交換を行っている	年2回の個人面談では、職員の自己評価に対して、管理者と話をしている。その時に意見や要望も尋ねている。職員の意見により、入浴時に観察した利用者の身体状態がわかりやすいように業務日誌の書式を変えた例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課及び面接を実施。話を聞く機会を持つようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じて研修へ参加している。施設内研修も実施しサービスの向上に心がけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム管理者と運営推進会議等で意見交換し、サービスに反映させている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を職員が把握し、コミュニケーションを重視し生活のリズムや思いを掴みます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接等で思いを聞き取り、入居後の様子をこまめに連絡したりなどで利用者の状況を把握していただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接をし本人家族の要望を伺いプラン作成し説明をしている 新たな要望もその都度取り入れている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にしていることを認識していただけるように作業やレクリエーションを一緒に行いコミュニケーションを多くとっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境(行事や雰囲気)を作り、利用者や家族の時間を大切に出来るようしている 時には同席し家族とのコミュニケーションを心がけている 希望者にはメールで日々の様子を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は特に決めておらず、いつでも受け入れている 馴染みの店や美容院などの利用、思い出の地への外出など本人の生活交流を大切にしている	昔からの友達や、ファンの歌手の後援会仲間等が面会に来ることがあり、職員は歓迎している。同一法人の他事業所に入居している兄弟が訪ねて来ることもある。夜勤職員一人だけの時間帯でも、事前に電話を入れれば面会でき、昼間仕事をしている家族も来訪しやすい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や状態によって職員が関わり、作業やレクリエーションでスムーズに会話が取れるように支援している 食卓のグループ作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入居後も本人や家族に面会し交流している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を確認したり、家族から情報を得ている。また、日々の行動や発言に注意して職員間で共有し、ケアに反映させている	理念にある「利用者個人の意志を尊重する」「利用者本位の質の高いサービスを提供する」に基づき、個別ケアの提供に努めている。外出を希望する利用者には個別に対応し、ドライブ等を楽しんでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接での聞き取りだけでなく、日々の会話の中で情報を得たり、家族面会の折などに何うなどして利用者理解に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・個人記録などで状態の把握に努め不安の無い生活が送れるように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が定期的にモニタリングを行い、ケアプラン会議に反映させている。また、日々の様子を家族に報告し家族の想いを反映させている	利用者ごとに「毎日の目標」を立て、実施状況を記録している。それを基にモニタリングを行い、目標の見直しを図っている。利用者一人ひとりに担当の職員を決め、日頃から担当する利用者の情報収集に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の行動記録と文章による個人記録を使用し、プランに反映させている。記録の様式はまだ充分でなく改善や記入技術の向上が必要である		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により話し合い等を行い、本人及び家族の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容・パン等の販売など外出が困難なときも地域資源を活用している ボランティア・実習生の受け入外部の方との交流を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医・病院等の選別は本人と家族の意思で決定し、継続できるようにしている	利便性の面から、往診してくれる協力医にかかりつけ医を変更する利用者が多い。利用者ごとに「医療ノート」を作成し、医療面に関する利用者の状況が把握しやすい記録を工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録によって状態を報告 必要に応じて連絡し指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に訪問し、病院側や家族から情報を得て状況把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の要望を聞き、説明を行っている また、状態の変化に合わせて家族との話し合いの場を設け、関係機関と共有している	入居の契約時に、重度化した場合は家族介護に切り替えるか、病院へ入院するか、事業所でのケアを継続するか、法人内の特別養護老人ホームへ移るかの希望を聞いている。重度化時の同意書があるものの、利用者や家族から同意書を取るまでは至っていない。	重度化や終末時の方針を明確にし、意識を共有して、同一方向の支援に取り組んで行くためにも、同意書を取ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講、内部での新人研修等の中で事故発生時の対応訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間の想定で避難訓練を行い、消防署の協力を得て消火器使用訓練等職員全員が実施している 法人全体の地震対応訓練を行っている	震度6以上の大地震の経験が無く、どの程度なのかを理解できないという職員の意見を踏まえ、全職員を6回に分けて、体験学習を実施した。その中で、煙に巻かれた場合を想定した、真っ暗な迷路を通るといったことも行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重した声かけや言葉使いを心がけているが充分でなく更なる勉強会等が必要である	職員は利用者一人ひとりに合わせた言葉かけをすることを基本としている。他人行儀でもなく、馴れ合いでもなく、利用者と職員という明確な関係を前提とし、良好な関係を築けるよう努めているが、管理者は十分でないと感じている。	職員のとっさに出てくる言葉や、利用者への馴れ馴れしい言葉を管理者は危惧しているため、勉強会や会議の機会を通じて、より適切な言葉遣いができるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を重視し、利用者の要望が表現しやすいような話かけができるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを重視し、安心して過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服など個々の好みを優先、買い物にも同行していただき本人が選択できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には希望を取り入れメニューを作成している 個々の好みの把握に努めている 作業の担当をいただいている	「食事」をととても大切にしている。献立作成から食材購入、調理、配膳、食事、片づけに至るまで、できる限り利用者と職員とが一緒に取り組めるようにしている。誕生日の利用者には、好きな物を献立に取り入れて、喜んでもらっている。	法人内の管理栄養士が作成した献立による食事体験や、事業所の週間献立を確認してもらうことを計画している。事業所の特徴である「家庭的な食事」を維持しながら、さらなる向上につながることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量のチェックを行っている 状況に合わせて食べやすい加工を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、個々の状態に合わせて介助・見守り・声かけと分けて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ることは急がず行っていただけるようにしている	トイレ介助の必要な利用者でも、ズボンを下げるなど、自分でできることはしてもらい、職員は最小限の介助に留めている。自宅に居た時は全介助だった人が、ここに入居して生活するうちに、ひとりで排泄ができるようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに薬を服用せず、水分摂取や便通に良い飲み物食材をとっていただくように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望すれば毎日入浴できるようにしている 職員と1対1のくつろげる時間のためいつもと違う反応を得ることが出来る時間でもあるので有意義に過ごして頂けるよう心がけている	入浴時は職員と1対1になれるため、普段よりも会話が弾み、入浴に気乗りしなかった利用者でも、いざ入れば、いろいろと話しかけてきて、寛いだ時間を過ごしている。希望する利用者2人が一緒に入浴したり、季節によって入浴剤を使うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと自室を自由に行き来できるよう支援し、状況に合わせて個人と集団で過ごせるように支援している また、一人の場合不安が軽減できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や主治医指導などを処方時に確認し、変更部分は申し送りや記録などで共有できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみをが継続できるように支援している また、個々の役割を持っていただけのように声かけしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には買い物で外出し、行事や趣味・希望等で外出支援している	時期や天候が良い時は、毎日のように散歩をしている。食材などの買い出しは、利用者に声をかけて、一緒に出掛けている。また、ドライブに行くことも多く、帰りがけに買い物をしたり、飲み物を買って飲んだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば個人で状況に合わせて管理している 不安等があれば本人家族の同意を得て預かることもしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節ごとの年賀状や暑中見舞いなど出すように支援している また、不安時は電話をしたり受けたり家族と相談の上行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは南向きで明るく、植物や写真・絵・掲示物などを飾り、暖かく清潔な空間作りを心がけている	リビングの掲示物等が過度になると幼稚な雰囲気になるため、絵や写真等の掲示は見えて「きれいだな」と感じる程度に留めている。2階では、物づくりの得意な利用者の創作物を廊下に展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置したり、イスを多く置いていることで自席だけでなく好きなところへ座っていただけるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具・茶碗・箸などを持ち込み、また家族の協力を得て自分だけの部屋作りをしている	居室内は利用者や家族の自由裁量に任せ、仏壇や位牌等を持ち込んでいる利用者もいる。しかし部屋の状態次第では、担当する職員が利用者に許可を得て、整理整頓をすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわかりやすいように入り口に目印を設置している		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202792		
法人名	社会福祉法人 淳邦会		
事業所名	グループホームひなぎく 2F		
所在地	岡山県倉敷市福田町福田281		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3370202792-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&amp;JivvosvoCd=3370202792-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	2013/3/27

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の桜・竹の子掘り・栗拾いなど自然に恵まれた静かな環境の中で、利用者一人ひとりの生活ペースを尊重し、生活リハビリを重視した支援を行っています。</li> <li>・母体法人は複合的な福祉施設を有しており、地域の高齢者介護に携わっている</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カウンターのいつも目に届く所に掲示しており、朝礼で毎日ひとつずつ月目標として復唱している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事へ参加、又は施設での行事へ招待やボランティア参加依頼などで交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで利用者の状況を報告し、知っていただく。見学やボランティアを受け入れ施設を開放している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族の代表等に出席していただき、会議内で提案された助言・意見を職員ミーティングで話し合いサービスの向上につなげている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡し相談をしている。また、指導を受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで話し合い、危険防止上での行き過ぎが無いよう心がけ対応している。日中、玄関等開放している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法などの研修に参加する機会ももてていないが、マニュアル作成やケガの報告による情報の共有で防止に取り組んでいる。		

グループホームひなぎく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し資料をミーティングなどで活用し、実際に制度利用者がおられる事で制度理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、納得の上同意を得てサービス利用をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関へ意見・苦情箱の設置をし、要望などを取り入れるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのミーティングや個人面談を行っている。また、毎日の申し送り等で意見交換を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課及び面接を実施。話を聞く機会を持つようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じて研修へ参加している。施設内研修も実施しサービスの向上に心がけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム管理者と運営推進会議等で意見交換し、サービスに反映させている		

グループホームひなぎく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を職員が把握し、コミュニケーションを重視し生活のリズムや思いを掴みます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接等で思いを聞き取り、入居後の様子をこまめに連絡したりなどで利用者の状況を把握していただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接をし本人家族の要望を伺いプラン作成し説明をしている 新たな要望もその都度取り入れている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にしていることを認識していただくように作業やレクリエーションを一緒に行いコミュニケーションを多くとっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい環境(行事や雰囲気)を作り、利用者や家族の時間を大切に出来るようしている 時には同席し家族とのコミュニケーションを心がけている 希望者にはメールで日々の様子を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は特に決めておらず、いつでも受け入れている 馴染みの店や美容院などの利用、思い出の地への外出など本人の生活交流を大切にしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や状態によって職員が関わり、作業やレクリエーションでスムーズに会話が取れるように支援している 食卓のグループ作りをしている		

グループホームひなぎく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入居後も本人や家族に面会し交流している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を確認したり、家族から情報を得ている。また、日々の行動や発言に注意して職員間で共有し、ケアに反映させている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接での聞き取りだけでなく、日々の会話の中で情報を得たり、家族面会の折などに何うなどして利用者理解に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・個人記録などで状態の把握に努め不安の無い生活が送れるように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が定期的にモニタリングを行い、ケアプラン会議に反映させている。また、日々の様子を家族に報告し家族の想いを反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の行動記録と文章による個人記録を使用し、プランに反映させている。記録の様式はまだ充分でなく改善や記入技術の向上が必要である		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により話し合い等を行い、本人及び家族の支援を行っている		

グループホームひなぎく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容・パン等の販売など外出が困難なときも地域資源を活用している ボランティア・実習生の受け入外部の方との交流を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医・病院等の選別は本人と家族の意思で決定し、継続できるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録によって状態を報告 必要に応じて連絡し指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に訪問し、病院側や家族から情報を得て状況把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の要望を聞き、説明を行っている また、状態の変化に合わせて家族との話し合いの場を設け、関係機関と共有している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講、内部での新人研修等の中で事故発生時の対応訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中夜間の想定で避難訓練を行い、消防署の協力を得て消火器使用訓練等職員全員が実施している		

グループホームひなぎく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重した声かけや言葉使いを心がけているが充分でなく更なる勉強会等が必要である		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を重視し、利用者の要望が表現しやすいような話かけができるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを重視し、安心して過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服など個々の好みを優先、買い物にも同行していただき本人が選択できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には希望を取り入れメニューを作成している 個々の好みの把握に努めている 作業の担当を していただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量のチェックを行っている 状況に合わせて食べやすい加工を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、個々の状態に合わせて 介助・見守り・声かけと分けて支援している		

グループホームひなぎく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ることは急がず行っていただけるようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すぐに薬を服用せず、水分摂取や便通に良い飲み物食材をとっていただくように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望すれば毎日入浴できるようにしている 職員と1対1のくつろげる時間のためいつもと違う反応を得ることが出来る時間でもあるので有意義に過ごして頂けるよう心がけている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと自室を自由に行き来できるよう支援し、状況に合わせて個人と集団で過ごせるように支援している また、一人の場合不安が軽減できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や主治医指導などを処方時に確認し、変更部分は申し送りや記録などで共有できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみをが継続できるように支援している また、個々の役割を持っていただけるように声かけしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には買い物で外出し、行事や趣味・希望等で外出支援している		

グループホームひなぎく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば個人で状況に合わせて管理している 不安等があれば本人家族の同意を得て預かることもしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節ごとの年賀状や暑中見舞いなど出すように支援している また、不安時は電話をしたり受けたり家族と相談の上行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは南向きで明るく、植物や写真・絵・掲示物などを飾り、暖かく清潔な空間作りを心がけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置したり、イスを多く置いていることで自席だけでなく好きなところへ座っていただけるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具・茶碗・箸などを持ち込み、また家族の協力を得て自分だけの部屋作りをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわかりやすいように入り口に目印を設置している		